

令和7年度 授業創造プラン

4年

教科	児童の実態（Gテスト／学力調査を含む）	具体的な取組
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きについては、繰り返し学習の成果が見られ、平均得点率は74%と着実に定着が進んでいる。 ・語彙力の向上には課題があり、分からない言葉を自ら国語辞典で調べる児童が少ない傾向にある。国語辞典の使い方が十分に定着しておらず、平均得点率は48%にとどまっている。 ・物語文の読み取りにおいては、登場人物の心情理解(64%～85%)は一定の成果があるものの、物語の内容を正確に理解することに苦手意識をもつ児童が多く、平均得点率は56%という現状である。 ・説明文の読み取りには大きな課題が見られる。段落構成を捉える力(17%)、内容理解(23%)、要旨の把握(33%)のいずれも平均得点率が低く、論理的な文章を読み解く力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックのミライシード機能や漢字スキルなど使って、既習の漢字や言葉についての理解を深める。 ・漢字学習の個別最適化と定着：同じ漢字を目的なく何度も書いて練習するのではなく、熟語で覚えたり、覚えられていない漢字を特定して重点的に練習したりするなど、個別の学習方法を見直していく。漢字小テストを重ねて、着実な定着を図る。 ・語彙力強化と辞書活用：日常生活の中でも辞書を積極的に活用し、分からない言葉を自ら調べ、その意味を説明する活動を意図的に取り入れる。 ・物語文の学習では、段落ごとの出来事と中心人物の心情の関係を、叙述を基に読み取ることで内容理解の力を付けられるようにする。 ・説明文の学習では、文章の中で聞かれていることが何かを明確にし、文章の中の大事な言葉（中心文やキーワード）を見つけて答える練習をする。また、「はじめ・中・終わり」の文章構成や、問いと答えなど段落に書かれている内容とその関係を意識して読む練習をする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則計算では、たし算（90%）、わり算（88%）と比べて、ひき算（63%）、かけ算（74%）の得点率が低い傾向にある。特に、かけ算の筆算では、乗数が2桁になると手順が分からなくなる児童が見られる。 ・図形の学習において課題が見られ、Gテスト平均得点率は、球（44%）、円柱（36%）、二等辺三角形（48%）と伸び悩んでいる。 ・数の仕組みについては、1億より大きい数など桁が大きくなると、数の仕組みを理解することが難しい児童が見られる（平均得点率 65%）。 ・グラフの読み取りでは、棒グラフを目盛りの大きさに注意して正確に読み取ることに課題が見られる（平均得点率 55%）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックのミライシード機能や、デジタル教材を使って既習の計算についての理解を深める。 ・レディネステストの活用と個別指導：新たな単元に入る前にレディネステストを実施し、児童の理解や習熟の程度を把握する。その結果をもとに、それぞれの児童に合わせたコース別指導に役立てる。 ・四則計算の徹底：ひき算とかけ算の定着を図るため、かけ算やわり算の筆算の手順が覚えられるように掲示物などを活用して、繰り返し復習し、定着を図る。 ・図形概念の深まり：「垂直と平行四辺形」や「直方体と立方体」の学習では、様々な二つの直線の交わり方に注目して比べる活動を行うことで、直線の平行や垂直の関係をしっかりと理解できるようにする。また、図形を分解したり、言葉で説明したり、補助線を引いたり、立体図形を平面図形に変換して考えたりすることで、より深く理解できるよう努める。 ・大きい数の仕組みの理解：『億』や『兆』でも同じ仕組みで、十進位取り記数法を使って数の範囲が広がっていくことを理解できるように、簡単な数から繰り返し練習する。 ・グラフの正確な読み取りと整理：縦軸、横軸の見方を目盛りの大きさに注意して押さえ、情報をグラフに整理する練習をする。